

# 町の考えを問う！

## 10 議員が登壇

12月定例議会では10名の議員が一般質問を行いました。その中から主な質疑応答の要旨を、質問した議員の要約により掲載します。

なお、会議中の発言および答弁の詳細は、伊奈町議会ホームページおよび図書館に備えてある会議録でご覧になれます。(ただし、12月議会分は3月初旬の掲載になります。)



伊奈町議会ホームページ  
<http://gikai02.kaigiroku.jp/ina/>

議員氏名	質問事項
水上 邦雄 (11ページ)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学力テストについて</li> <li>2 後期高齢者医療について</li> <li>3 安心して子供を産み育てられる町に</li> <li>4 インフルエンザ予防接種について</li> <li>5 南保育所送迎車両の交通安全対策について</li> </ol>
平田 義雄 (11ページ)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 公共下水道整備計画の現状と整備済み地域内での下水道への未接続住宅への指導について</li> <li>2 住民相談における多重債務者への対応について</li> </ol>
鳥井 文典 (12ページ)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 来春予定の町長選に向けて</li> <li>2 近隣との広域行政と合併問題について</li> <li>3 厳しい財政難の対策として「寄付条例」の導入を</li> </ol>
小林 菊江 (12ページ)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 良書で豊かな心育もう</li> </ol>
村山 正弘 (13ページ)	防災対策について <ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査と啓蒙</li> <li>2 総体的対策</li> <li>3 ボランティア対策</li> <li>4 まとめ</li> </ol>

議員氏名	質問事項
大沢 淳 (13ページ)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 平和行政の充実を求めて</li> <li>2 学園通りに街灯の増設を</li> <li>3 農地の活用、保全と住民の農業参加の推進を</li> <li>4 障害児学童保育室バナナキッズ</li> <li>5 来年度の全町の通学区域と小針北小学校の児童増加に対する対応</li> </ol>
永末 厚二 (14ページ)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 町長は伊奈町をどうリードしようとしているか</li> <li>2 物品調達や入札制度について</li> </ol>
青木 久男 (14ページ)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 野川町政について</li> <li>2 学校教育について</li> </ol>
大谷 保雄 (15ページ)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 防災・防犯対策について</li> <li>2 違法看板・チラシ撤去対策について</li> </ol>
佐藤 弘一 (15ページ)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 高齢者に対する公共交通手段といなまるについて</li> <li>2 中小零細企業への調和繁栄について</li> </ol>

妊婦無料健診現在2回  
国通知14回にするべきだ

公費負担は重要

回数増前向きに検討する



みずかみ けんじ  
水上邦雄 議員

一斉学力テスト  
について

問 学校の序列化や競争の激化が心配される、結果の公表は行うべきではないと考えるが。

答 町全体及び各学校毎

の具体的な数値結果は公表しない。

後期高齢者医療  
について

問 75歳以上が全員対象で新たに税負担者が増える。年金から天引き、無



南保育所、駐車場に向かって途中から狭くなる道路

年金、無収入者など低所得者の保険料負担が大変町独自の手だてが必要と考えるが。

答 県の軽減措置がある。

問 診療報酬の包括払い(定額制)で必要な医療が受けられなくなると予測されるが。

答 高齢者医療の効率化と心身の特性を踏まえたものである。

インフルエンザ  
予防接種について

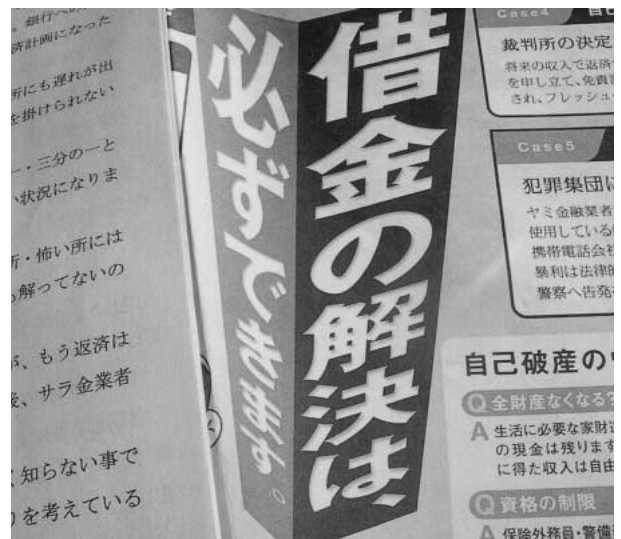
問 希望者全員を対象にした補助制度にするべきだ。

答 定期接種を推進していく。

南保育所送迎車両の  
交通安全対策について

問 駐車場に入る道路が狭く片側交互通行の状態朝夕とりわけ降雨時の混雑が大変、抜本的な対策が望まれるが。

答 職員が誘導している。保護者の譲り合いと余裕をもつての登園をお願いしていく。道路拡幅等は今後検討していきたい。



多重債務に関する相談資料

多重債務者救済への取り組み

専用相談窓口の開設を

開設に向けて検討したい



ひらた よしお  
平田義雄 議員

問 町住民相談室への相談内容は多岐に渡ると聞きます、相談への回答等の処理はどのよう対応されているのか。

答 職員での対応可能以外は町の特定期日での専門的な相談員で応じ、法律等の相談支援につとめている。

問 相談内容の中、多重債務に関する相談も多いと聞く、その取り扱い方は。

答 多重債務の相談は、一般的に緊急を要することがあり、町の特定期日に合致しない時は、各種専門機関に案内をする対応を取っている。

問 多重債務の方は、どこに相談したらと迷っており、町は多重債務者救済支援として町に多重債務に関する専用相談窓口を開き、直通電話導入等で救済支援のアピールが必要と思うがどうか。

答 電話設置など窓口を充実していきたい。

本下水道への接続率  
向上を

問 下水道供用開始地域内で浄化槽不備等による汚水流失があり、周辺環境に問題がでている。未接続住宅への指導についてを伺いたい。

答 未接続住宅への個別訪問等を強めて接続促進に努める。



投票風景

### 来春の町長選に 野川町長は再出馬されるのか

出馬する



問 来春の町長選に野川町長は再出馬されるのか改めて伺いたい。

答 出馬する。

とりいぶんでん  
鳥井文典 議員

隣接する市との  
広域行政は

問 隣接する上尾・桶川・蓮田市とそれぞれ定期的に協議し、共同で推進できる施策や諸問題を話し合う場の設定を。

答 協議の場が設定できるような働きかけたい。

問 厳しい財政の中、合理的効率を高めるため広域行政のさらなる充実化を。

答 充実に努めたい。

合併問題について

問 合併の現在と今後の考えは。

答 住民主体であるべきで、町民と議員とも時間をかけて議論していくべきと考える。

問 合併に対し町長はリーダーシップを発揮すべきだ。

答 努力したい。

寄付条例の導入を

問 厳しい財政難の中、複数の政策メニューを示し、町内や全国から寄付を募り、それを財源として施策を推進する「寄付条例」が全国的に拡大中だ。当町も導入すべきだ。

答 導入した所の状況等をみながら今後研究したい。

### 良書で豊かな心育もつ

読書のできる家庭環境づくりと読書の重要性を啓発していく



こばやしきくえ  
小林菊江 議員

学校図書館の充実を

問 文科省は「新学校図書館図書整備五カ年計画」

問 昨今、活字離れが指摘されて久しいが「良書」は、豊かな想像力と考える力を育む。また子どもが本来持っている生きる力を引き出すと高く評価されてきたが、当町の子どもたちの読書の現状は。

答 全小学校・幼児を対象とした「読書マラソン」や「読書感想文」等、また各家庭で本に親しめる環境づくりの指導も行ってきた。

問 高学年に成る程「本の不読者」が多いと言われるが現状は。

答 「全国学力学習状況調査」の結果とほぼ同じ傾向である。



良書を読もう

をスタートさせた。

財源は地方交付税によるもので、学校図書費としての目的予算ではない。

町内小中学校の「標準蔵書数」の整備率状況はどうか。

答 小学校の平均整備率71%・中学校80%である。

国では平成23年度までに整備率を100%目指せるよう働きかけているので目標に近づくよう、年度ごとに蔵書率を上げ、児童生徒が多くの良書に囲まれた環境づくりに努力する。

地震災害を最小限にするために「ぐらつときでもまず身の安全確保・火の始末は揺れが収まってから」のPRをすべきだ

消防庁・県で作成したパンフレットを使って。消防ホームページでPRし普及に努める



村山正弘 議員

問 防災対策についての町長の所見を伺う。

答 安心・安全が最重要課題である。

防災行政推進も、全行政区に自主防災組織を設立した。

18年19年度の事業として、地域防災計画の改定を行い19年度中に完成させる。

問 地震災害の際の避難人数をどう考えているか。

答 震源地、発生する季節や時間帯により、避難住民は最大8千人と想定している。

6.9 当町がマグニチュード規模の震源地になる事



中越沖地震柏崎市の支援ボランティア

も想定している。

問 災害時要援護者の把握と支援計画が必要だが対象者は何人か。

また、人工透析対象の防災対策が必要である。

答 対象者は98人である。

地域防災計画改訂後に災害時要援護者・避難支援プランを策定する。

問 避難所・支援物資・ボランティア受入・熱源

・水・食料等の対策を具体的に検討すべきだ。

答 全面見直し中の地域防災計画で策定する。



学園通り

小針北小の児童増加に対応を

平成20年度に増築工事を

おこないたい



大沢 淳 議員

平和行政の充実を

問 現在実施している事業は。

答 親子見学会の実施と「平和展」を開催している。

レクリエーション農園の充実で農地の活用・保全を

問 レクリエーション農園を農地の保全・活用のため重要視すべきでは。

答 一つの手段として有効である、今後も充実に努めたい。

問 市民農園の設置は。

答 JAと協議して検討したい。

障害児児童保育室バナナキッズ

問 特別支援学校の施設や敷地を障害児児童保育室が活用できるように。

答 今後も県の動向を見ながら、保護者会の意見も聞き対応したい。

小針北小の児童増加

問 今後の児童数の予測は。

答 現在のゼロ歳児が入学する平成25年には、1080名、学級数で31学級。社会増を含めると35学級になる。

町長は伊奈町を  
どうリードしようとしているか

住民サービスの向上と

行政コストの削減の両立を図る



問 地方債の現在高は総額202億6千980万8千円となっている。

財政状況をどのように認識し、改革しようとしているか。

答 人口が増加しており、住民サービスに直結する様々な基盤整備が必要、歳入は、税収増はあるが財政全体は大幅な伸びはない。

慢性的な歳入不足が続き極めて厳しい状況、行政改革を積極的に進め、指定管理者制度や有料広告制度の導入、町有地の売却による歳入増に取組んできた。

今後も行財政改革を推進し「経費の削減」「事業の見直し」「歳入増に

ながすえこうじ  
永末厚二 議員

向けた取組」など、基礎的財政収支の均衡に向けて財政の健全化を図る。

問 合併新法は22年3月31日が期限、今後の合併の考え方は。  
答 上尾市の市長選挙な

どを見ながら、町民や議会と話し合いたい。

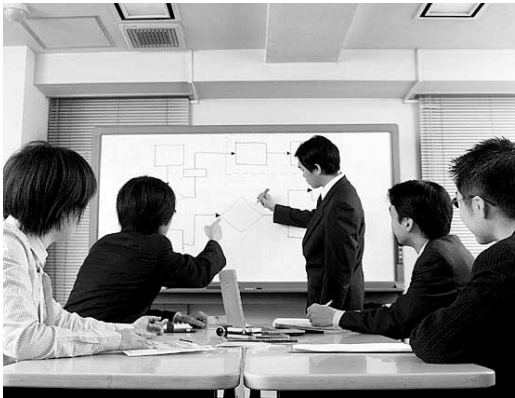
町民参加で

「まちづくり条例」を

問 町民参加の「まちづくり条例」を作ってはどうか。

答 この条例は、ニセコ町で始められ自治の実現を目指し情報共有や住民のまちづくりへの参加等定めたもので、自治体の憲法と言われているもの。

県内では富士見市などで取り組まれている。条例制定は状況を見極め今後研究する。



町づくり条例検討のイメージ



小学校の授業風景

全国学力テストの結果は  
どうだったか

県とほぼ同じであった



あおきひさお  
青木久男 議員

問 小6と中3を対象に43年ぶりに実施された全国学力テストについて町内の結果と、それは今後

どのように活かされるのか。  
答 具体的な数値は公表しない方針だが、伊奈町

は県とほぼ同様であった。今後は成果と課題を把握し、対応策を講じる資料として役立てていく。

いじめ等の状況は  
どうか

問 いじめについては全国的に増加傾向にあるとの報道もあり、大変気がかりだ。いじめについての状況と対応策はどうか。

また不登校、校内暴力の状況は。

答 今年度から定義が変えられいじめの範囲が広がられた。積極調査の結果、当町でも10月末の認知件数は小学校19件(昨年8件)、中学校39件(同23件)と増加している。

不登校は小学校5名(昨年4名) 中学校22名(同31名)で校内暴力は小学校0件(昨年0件) 中学校3件(同0件)だった。

当町は校長が中心となり教職員の英知を結集して教育活動を展開している。いじめ等の解消にも鋭意努力している。

### 防災対策

#### 当町の対策は

昨年地震被害想定調査を実施した  
今年度改訂し、地域防災計画に防災  
体制の整備などの対策を策定する



おたに やすお  
**大谷保雄** 議員

問 防災対策について当  
町の対策は。

答 平成18年、地震被害  
想定調査を実施した。今  
年度改訂し、地域防災計  
画に防災体制の整備など  
の対策を策定する。

問 非常時招集訓練は。

答 18年7月6日、午前  
5時より実施した。職員  
230名中5時45分まで192名  
83・5%集合した。



防犯拠点、安心安全ステーション

問 防犯対策は。

答 防犯講演会の継続、  
町、警察、自主防犯組織  
などの連携を図り、意見  
交換に取り組む。住民を  
守るための防犯灯の設置  
また上尾警察署に、パト  
ロール強化の要請をする。

問 犯罪発生件数は。

答 1月から10月まで刑  
法犯罪総数489件、街頭犯  
罪235件、侵入盗71件、そ  
の他183件。

違法看板・チラシ  
撤去について

問 今年度違法看板撤去  
数は。

答 4月から現在まで500  
件。

問 住民参加による簡易  
除却制度の県内導入数は。

答 平成17年14市町、18  
年4市町、19年1市、県  
内70市町村のうち19市町  
で導入された。

問 町は導入の検討をし  
たか。

答 19市町は繁華街など  
人が集まる施設がある。  
当町と事情が異なる。



町内循環バス いなまる

### 高齢者の交通手段の確保に

#### デマンド方式は

他の交通手段があるので

デマンド方式は考えていない



さとうこういち  
**佐藤弘一** 議員

問 高齢者に対する公共  
交通手段の確保には、い  
ろいろな方法があるがデ  
マンド方式をどのように  
考えているか。

答 デマンド方式は山間  
部・過疎地など地域の特  
性があり、当町とは状況

が異なる。デマンド方式  
の導入は現在のところ考  
えていない。

「いなまる」の今後は

問 現在1台の「いなま  
る」バスが巡回している。

北部の方では利用者が少  
なく、十分な機能の発揮  
がされていない。

2台目の採用が見送ら  
れた経緯もある。コース  
の変更要望にもどう応え  
るか。

答 平成15年から運行5  
年が経過する、コースや  
逆回り、便数等ご意見・  
要望がある。今後も利用  
状況の把握に努め、町民  
に親しまれ、多くの方々  
に利用される町内循環バ  
スとなるように努力する。

町内中小企業へ  
調和と繁栄を

問 役場からの発注を期  
待している商店主の声も  
聞く、地元企業の育成や  
契約は。

答 零細な町内建設工事  
業者など向けの制度とし  
て50万円以下の小規模な  
工事や修繕を対象に小規  
模契約登録制度を設けて  
いる。

今後町内業者に適正  
規模の発注の機会が与え  
られるよう、十分配慮す  
る。